

第19回「文芸思潮」エッセイ賞 中間発表 一次・二次・三次予選

●第19回「文芸思潮」エッセイ賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国から総数一三五編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る三月末日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。

北海道

- 「かわりばんこ」 斉藤はな絵
○「白いネクター」 団周五郎
○「墓場の前の別荘」 林、英二
○「みそまんじゅう」 瀧沢 鈴
○「ひとつの約束」 はなはな
○「西別川源流の自然」 塚田伸幸
○「ノアガーデン」エリザベス」 栗山佳子

似て非なる二人

- 「南北之塔」 青地久恵
○「背筋」 中村郁恵
○「もう少し早く戦争が終っていたら」 配島彊子
青森県
○「爺のお宝」 竹浪和夫
○「鳥の道」 矢野吉晴

宮城県

- 「ときめきの正体」 美山 陽
○「歴史を紡ぐ麦」 勝山 稔
○「回想録、夜の街」 柏村ねお
福島県
○「故郷は、永遠なり」 佐藤悦弘
○「引き揚げ船の悲劇」 西島雅博
○「八十峠の後見ず坂」 鈴木正治

茨城県

- 「短歌でつづる想ひ出のかけら」 女郎花
○「すてきな星」 田中 修
○「いのち」 佐藤邦夫
群馬県
○「道伝性疾患に苦しむ我が子ジャーマン・シエパード」 村松佐保

埼玉県

- 「人生の勲章」 澤井樹生
○「岐阜県」 「ごめんな。愛しい心臓よ。」 平岡佐一郎
○「前を向いて生きる」 いっちゃん
○「誤信信仰」 秋葉みのり

静岡県

- 「息子の入院」 大杉 綾
○「ひたむきな、余りにひたむきな」 三鶴
○「洋子ちゃん」 石井カズ
愛知県
○「西日」 宮尾美明
○「ひと夏とイルカと」TAKKAYO00
○「青女」 長坂弥生
○「蘇鉄の花に想う」 天城囀一

三重県

- 「暇つぶし」 佐久間隆史
○「ガザに生きて」 琴乃夕月
○「母の満洲」 中田重顕
○「玄関を、飾る」 風蒔きさん

滋賀県

- 「痛烈批判、エリート没落と再生」 ぼたるいか・さだ
○「京都府」

- 「すべては手数と運とご縁で決まる」 三日月李衣
○「鬱の手記Ⅱ」 北川 聖
○「ベルリン」 風間麗子
千葉県
○「聖バレンタインの贈り物」 平野靖雄
○「父と私のミステリー」アザミ
○「白鳥の歌」 白葡萄
○「日本の鉄道会社への唯一の苦言(わがまま)」 ペンギン
○「灰香」 桜藤 伸
○「私、これからどうしたい？」 古池真矢

東京都

- 「閉ざされた家の中で」 野間瑠希心
○「胡蝶蘭が咲いた休日」 沼田誠史
○「こんなには 赤ちゃん」 九条之子
○「学生時代の女先輩たち」 御厨 謙

大阪府

- 「他のやり方は知らない」本澤章
○「義母と水ようかん」せがわけい
○「心の帰港地」 崔宣葉
○「団子ちゃんは何者？」林 須磨
○「学生と共にコロナ禍と闘った日々」 和泉勇希
○「春の愁い」 幸村 篝
○「不思議な体験」 田中美晴
○「ロバのパン、追いかけて」 今井清賀

兵庫県

- 「いきる経験」 森崎律子
○「太宰先生のお膝元」 山田まさ子
○「都会の基地」 太田 悠
○「第二の誕生日」 Chiquia
○「月になったあなたへ」星野花蓮

奈良県

- 「煎茶道と私―元茶翁との出会い」 中牟田桃園
○「和歌山県」
○「猫と神」 みな熊々
○「島根県」
○「乳を取る」 ドコウミナ

岡山県

- 「義母終のことは」 家森澄子
○「運命の一手」 地伊田月夫

- 「怒り」 黒岡 實
○「サボテンの花」 姉齒浩一
○「あぶくとはいわせない」 高尾周一
○「山の上ホテル」休業によせ 牧 康子
○「小さい祥ちゃんは社長さん」 河上美智子

徳島県

- 「大きな木の故郷」 石橋いづみ
○「父と猪」 富登千恵子
○「私を彩るもの」 福山由美
○「決算報告」 山谷麻也
○「地獄で生きている」 青田雪生

高知県

- 「レターラックに佇むスイカと波」 小原友紀
○「母の祖「佐佐木吉田厳秀」の里を訪ねて」 田浦チサ子
○「もてない女のひとりごと」 下野恵依子
○「長測肯定論―猿一匹、歌えば侍」 薩摩
○「よっちゃん」 安部としき
○「長い旅」 西尾 吉
○「ある高齢者の愚痴」 雁
○「断罪すべき人」 下村成昭

福岡県

- 「節約を楽しむ」 宮川明代
○「でこぼこ」 岩隈大介
○「夫婦は相身互い」 山田 牧
○「今日の苦勞」 内藤栄介
○「胡蝶蘭とスマイレ」 風上颯馬
○「誕生日が待ち遠しいワケ」 佐生綾子
○「くにたちパロッド都市の夢」 笹木砂希
○「どこまでが優しさで、どこからが暴力か」 千葉紫月
○「静御前と小さな鉄瓶」武藤眞子
○「夜明けのルナ」 渡部りえ

佐賀県

- 「リボン」 松尾なおゆき

第19回文芸思潮エッセイ賞予選通過者発表

- 神奈川県
○「私のかげ湯作法」 二川原良三
○「安倍家三代記」 相模次郎
○「がんのこと、お子さんに伝えませんか？」 秋谷 進
○「泡となって」 阿彦美咲
○「前途晴朗なり」 小倉一純
○「ファルセットに恋をして」堤洋子
○「僕とマウスピース」 川和真之
○「八十路の戸惑い」ゴルビー長田
○「夢のあと」 福井雅人
新潟県
○「イヌワシとクマタカ」 松浪丞
○「就活について」 柳川 隆
富山県
○「トイレのなかのおばさん」 椎木友理
石川県
○「風は自ら起こそう」 工藤哲椰
○「生命の多様性と系統性」 酒井忠三
○「運命を生き抜いて」 豊代恵子
○「二人だけの宴は続く」 明石弘貴
山梨県
○「甲府市役所」 田中浩司
○「性欲の強い店主」 ふきのとう
○「それでも生き抜こう」 佐高 源
○「オンリー・イエスタデー」 米山哲雄

- 滋賀県
○「痛烈批判、エリート没落と再生」 ぼたるいか・さだ
○「京都府」

- 徳島県
○「大きな木の故郷」 石橋いづみ
○「父と猪」 富登千恵子
○「私を彩るもの」 福山由美
○「決算報告」 山谷麻也
○「地獄で生きている」 青田雪生
高知県
○「レターラックに佇むスイカと波」 小原友紀
○「母の祖「佐佐木吉田厳秀」の里を訪ねて」 田浦チサ子
○「もてない女のひとりごと」 下野恵依子
○「長測肯定論―猿一匹、歌えば侍」 薩摩
○「よっちゃん」 安部としき
○「長い旅」 西尾 吉
○「ある高齢者の愚痴」 雁
○「断罪すべき人」 下村成昭
佐賀県
○「リボン」 松尾なおゆき

エッセイ賞応募者の皆様へ 第一次・第二次・第三次の選考基準について

●第19回「文芸思潮」エッセイ賞への御応募まことにありがとうございます。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に対して伝わる文章になっっているかどうかが最重要の基準点です。しかし書く姿勢も加味させていただきます。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整っていても、書く姿勢に曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきます。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありません。したがって、応募者全員が一次予選合格ということもありません。

また第二次予選は、その中でさらに強く何が感じられるもの、光るものを選びます。何かが読み手の中に残っている作品ということになります。内容でもいいですし、文章でもいい、一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に拾い上げたくなくという、一つの魅力を持っているかどうかのポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの人に読んでほしいくなるような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、だいたい雑誌に載ってもいい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。

「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけています。したがって、場合によってはたくさん作品が三次予選、さらにはその上に選出される可能性もあります。

今年第19回も三次予選通過者が多く、応募作品全体の水準が上がっていることを実感しております。

もっと詳しく御自分の作品への感想・批評が聞きになりたい方は、作品個別の「批評コメント」もご利用いただけます。どうぞ御希望をお送り下さい。

〔「文芸思潮」エッセイ賞選考委員会〕

- 熊本県
 - ◎「世のため人のため」 高浜富士夫
 - ◎「サントーシャさんと話して思う事」 宮原真希
- 宮崎県
 - 「眼科での出来事」 美土里博
 - ◎「ミッシェンスクール育ちが寺に嫁ぐと」 森下文乃
- 沖縄県
 - ◎「日本の心」 新垣景和
- 海外
 - ◎「大統領選挙を控えて」 荘百合子
 - ◎「ロンドンにあえて幸せ」 壬生智恵



小説の書き方を体験を踏まえて丁寧に解説する小説指導書

小説の書き方

——作家を志す人のために——

五十嵐 勉

税込 1000 円 御注文はアジア文化社まで